

# 小学校学習活動案 「武蔵野を知ろう」

対象学年	小学4年	総時数	105時間	週時程年間固定型	週3時間の実施
------	------	-----	-------	----------	---------

地域の特色を生かし、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心に基づく教育活動に取り組むことを目指した指導事例です。武蔵野の自然を代表する雑木林を保全する活動、サツマイモの栽培をとおして古くから行われてきた循環型農業の仕組みについて学習します。地域の特色を生かした学習活動に取り組むことで、郷土の先人の知恵や郷土を大切にしようとする気持ちや豊かな心を育てます。

## 1 学習活動のねらい

- (1) 自分たちの生活に目を向け、課題をもち、追究活動（見る・聞く・調べるなど）を行う力を身に付けます。
- (2) 学習で得たことを効果的に表現し、人に伝える力を身に付けます。
- (3) 学習過程で出会った人たちから人間としての生き方や在り方を学び、自分の生活について考える力を養います。

## 2 学習課題

地域学習、環境学習、自然体験学習、消費生産学習、情報教育、表現制作

## 3 学習活動の特徴

校内体験学習、校外体験学習、訪問・見学、外部講師の招へい

## 4 教科等との関連

国語 話すこと・聞くこと  
 社会 身近な地域についての学習  
 理科 生物とその環境  
 道徳 主として自然と崇高なものとのかわりに関すること



## 5 年間計画

設定した授業時間には事前・事後の指導時間も含まれています。

	1 学 期				2 学 期				3 学 期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 習 内 容	サツマイモ畑の準備をしよう・土づくり	サツマ苗を植え付けよう	パソコンを使ってサツマイモを調べよう	畑の管理をしよう・除草・つる返し	農家の仕事を勉強しよう・農家見学	イモ掘りをしよう	雑木林を体験しよう・校外学習	ドンダリの種をまこう	挑戦！武蔵野の味づくり	落ち葉を集めて堆肥をつくらう	武蔵野を知ってもらおう・発表会
時間	8h	8h	10h	6h	14h	8h	12h	10h	10h	10h	9h

校内学習

校外学習・訪問・見学

外部講師

## 6 育てたい資質と能力

郷土の自然に対する 愛情とモラル	自然の仕組みや人間 と環境の関係につい ての理解	持続可能な社会をつ くる態度	郷土の文化に対する 理解と伝統を守り伝え ようとする態度
身の回りの自然から恵みを受けていることに気付き、豊かな感性を育てるとともに、自然を大切にしようとする。	身の回りの環境について、自然の仕組み、様々な恩恵や問題点に気付き、考えることができる。	他人の意見や生活様式など、自分と違う立場を大切にしながら、自分ができるところに取り組もうとする。	身近な自然や郷土の伝統に気付くことができ、身近な地域にあるものを大切に、郷土を愛する心を持とうとする。

## 7 児童の学習活動

児童一人一人が生き生きと学習活動に取り組むためには、強い学習意欲に支えられていることが大切です。児童自身がそれぞれの学習テーマに取り組み、教師も児童と共に学んでいく学習活動を大切にします。

問題解決的な学習を進めていく上で、次の段階を踏まえながら学習活動を展開していきます。

### (1) ふれる ～課題と出会う～

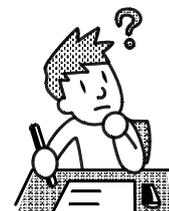
- ・直接体験や様々な資料、映像等の擬似的な体験を仕組むようにします。
- ・年間指導計画に基づいた単元内容に沿って体験的な学習ができるようにします。

### (2) つかむ ～学習テーマの設定～

- ・児童の学年、発達段階を踏まえた学習テーマとなるよう、留意します。
- ・児童が立てた学習テーマが追究可能か、事前に児童とともに調査・検討し、難しい場合にはテーマを再設定します。

### (3) たてる ～学習計画づくり～

- ・学習内容、学習方法等の計画を柔軟に立てます。
- ・児童に、どのような資質や能力を育成できるのかを明確にします。
- ・グループ学習や異年齢集団などによる学習形態を工夫します。



### (4) しらべる ～追究活動～

- ・体験的な学習を積極的に取り入れます。
- ・情報機器や情報ネットワークを積極的に活用します。
- ・発表会を行い、学習活動の進捗状況を把握し、児童自身が学習活動を振り返って評価し、改善を図っていくことができるようにします。

### (5) まとめる ～まとめ・表現～

- ・学習したことをまとめることは、自らの学習を振り返ることになり、児童自身の学習の成果を確認できるとともに、学び方についての定着を確かなものにします。
- ・一人一人のよさを認め合う学習の場を設定します。
- ・保護者や地域の人たちに、学習の成果を発表します。

### (6) いかす ～実践、新たな課題の設定～

- ・学習後の活動がどのように発展・継続していくか見守り、学級やグループで話し合う場を設けるなど適切な指導・助言を行います。
- ・次の学習活動への動機づけを図るとともに、新たな学習テーマの発見に生かす工夫をします。

# 「武蔵野を知ろう」 (学習指導案1)



1 単元名 「雑木林を体験しよう」 12時間

## 2 ねらい

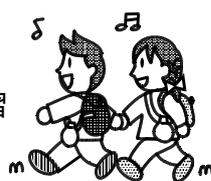
- (1) 武蔵野の自然を代表する雑木林の探検や散策、植林、落ち葉かき、もやかき等の体験活動をとおして、人と自然とのかかわり、里山を保全していくことの大切さを理解します。
- (2) 郷土に伝わる循環型農業の仕組みとその良さを身を持って学習することで、先人の知恵を学ぶとともに、自分たちの生活を見つめ直し、郷土を大切にしようとする心を育てます。

## 3 実施上の留意点

- (1) 本単元は、雑木林を題材として取り上げ、雑木林がかつての農村生活にどのような役割を果たしてきたのか調べ学習を行い、自然学習施設を活用して実際に里山を利用し保全する体験学習を実施します。
- (2) 雑木林の役割を調べる学習活動では、理科の「生物とその環境」、社会の「我が国の農業」の学習との関連に留意します。
- (3) 体験的な学習をとおして、雑木林と自分たちの生活とのかかわりを児童に考えさせるようにします。

## 4 展開例

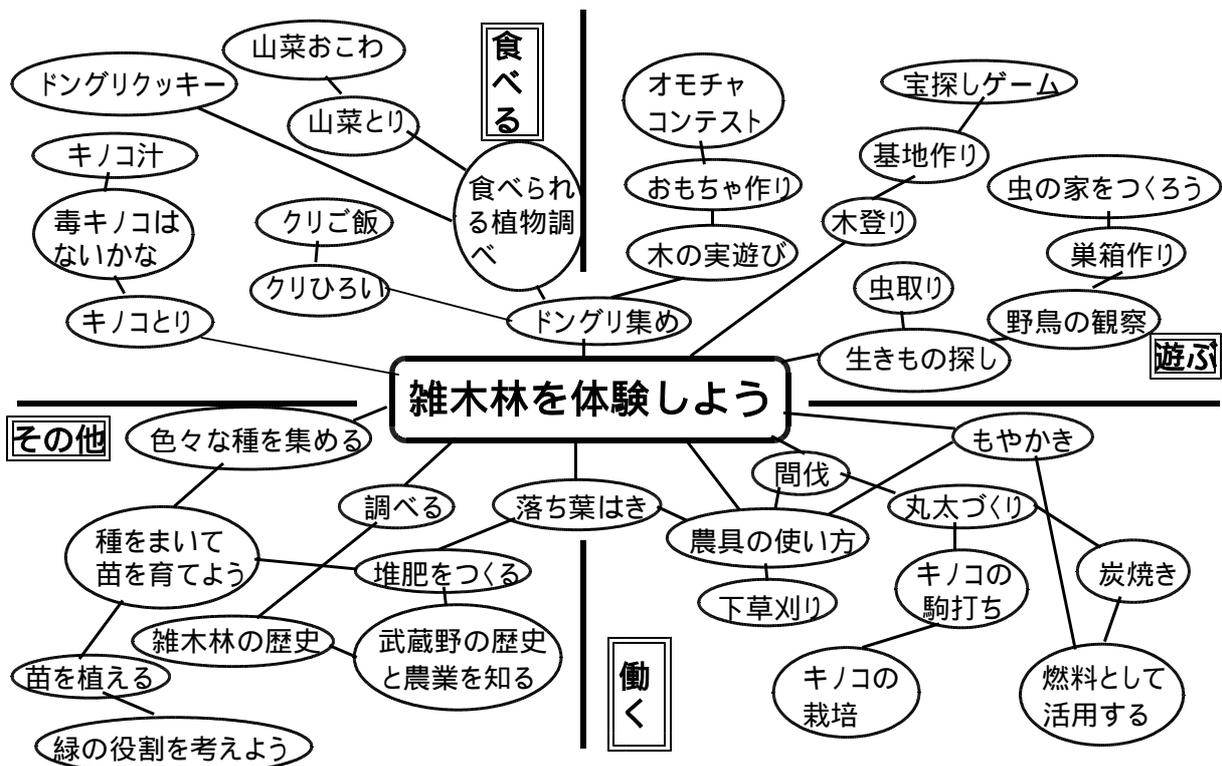
過程	主な学習活動	留意点等
ふ れ る ----- つ か む ----- た て る	(1) <b>みんなで雑木林には何があるのか、何が生活しているのか、調べてみよう</b>  虫 鳥 葉っぱ 木 ドングリ その他	学校の近くにある雑木林を事前に調べることにより、具体的な意見が出るよう工夫する。 学校の近くにある雑木林の散策を行う。散策の計画づくりは、自分たちで立案できるようにする。
	(2) <b>雑木林を探検してみよう</b>	
	(3) <b>雑木林は何のためにあるのだろうか</b>  調査活動計画  調査  発表	雑木林の地主に、児童の見学や調べ学習への対応を依頼しておく。 「総合的な学習の時間」をとおして、郷土の先人の生活と雑木林との結び付きについて考えることができるようにする。 事前に保護者・地域のNPO・ボランティアへの協力を求め、アドバイスや実技指導をしてもらえるよう依頼しておく。
	(4) <b>みんなで雑木林を守る活動に取り組もう</b>  計画作成、話し合い活動  準備  自然学習施設での体験学習 ・落ち葉かき ・下草刈り ・もやかき ・ドングリ集め ・学校で育てた苗木の植林	自然学習施設の管理者との連携を密にして、体験学習の内容、道具や教材の準備、時程、移動手段、安全面での配慮等の詳細な実施計画を立てる。 体験学習を通じて児童が身近な自然に対して気付き、知識、スキル、使命感を学ぶ機会となるよう、教師は支援を行う。



し ら べ る	(5) <b>昔の人の生活と雑木林の結び付きを考えよう</b>	肥料をつくる 燃料を集める 食べ物を得る その他	<p>自然学習施設で行った体験学習をもとに、雑木林と密接な暮らしをしていた時代の人々の生活が、理にかなった循環型のシステムであったことに気付くことができるようにする。</p> <p>身の回りの環境についての様々な問題点に気付くよう工夫する。体験学習で持ち帰ったドングリや落ち葉を使ったオモチャ作りを行う。</p> <p>学習の成果を日常生活の中で生かしていくことができるよう、みんなが考えを述べあえるような場を設定する。</p> <p>緑を育て、緑を増やす活動の一つとして、植林用の苗を校内で育てる活動に取り組む。</p> 
	(6) <b>自分たちのくらしと比べてみよう</b>		
	(7) <b>自分のやってみみたいことに挑戦しよう</b>		
	(8) <b>まとめをしよう</b>		
ま と め る ・ い か す		雑木林についてわかったことや、体験学習で頑張ったことをまとめる。	
		雑木林を守ることがなぜ必要なのかまとめる	
		発表会	
		活動をおして、さらに取り組んでみたいことなどについて話し合う。	

## 5 ウェビング法による学習テーマの発見

児童が学習テーマを追究しようとする際に、ウェブ（クモの巣）を作って素材探しを円滑に行う指導方法です。あることばをキーワードに色々なことばを連想し、対象から思い浮かぶことを自由に図示して関連づけをしていきます。学習テーマに関係する素材を幅広く探し出し、イメージを広げ、自分の知識や経験をつなげることで、対象への総合的な見方や考え方を養うのに有効な手法です。



# 「武蔵野を知ろう」 (学習指導案2)



1 単元名 「挑戦！武蔵野の味づくり」 10時間

## 2 ねらい

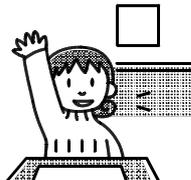
- (1) みんなで協力して育てたサツマイモを材料にイモ菓子を作る活動をとおして、互いに学び合うことや協力することの大切さを味わいながら、粘り強く活動することができるようにします。
- (2) 郷土に伝わるイモ菓子の製法やその良さを調べることをとおして、郷土の先人の知恵を学ぶとともに、郷土を大切にしようとする心を育てます。

## 3 実施上の留意点

- (1) サツマイモを年間の中心題材として取り上げ、栽培から食するまでの体験的な学習を系統的に実施します。
- (2) サツマイモの生育状況に応じて、弾力的に教材を選定します。
- (3) 課題解決型の学習を行い、地域の人々の教育力を生かすことで、児童の学ぶ力を育てます。

## 4 展開例

過程	主な学習活動	留意点等
つかむ	(1) <b>みんなで栽培したサツマイモの利用法を調べてみよう</b> <div style="text-align: center;"> </div>	自分の身の回りにあるサツマイモを使った製品を事前に調べることにより、具体的な意見が出るよう工夫する。 全員が集合できる場所で話し合いを行う。
	(2) <b>サツマイモのお菓子を作ってみよう</b>	協力して仲良く活動に取り組むことが大切であることに気付くことができるようにする。
たてる	(3) <b>イモ菓子にはどんなものがあるだろうか</b> 調査活動計画 調査 発表 	地域の製菓工場・資料館等に、児童の見学や調べ学習への対応を依頼しておく。 見学の計画づくりは、自分たちで立案できるようにする。 郷土の先人のサツマイモ栽培の様子や苦勞等について知り、人々の生活の様子に関心を持つことができるようにする。
	(4) <b>みんなで協力してイモ菓子を作ってみよう</b> 計画作成、話し合い活動 準備、レシピの作成 イモ菓子、外部講師の指導 試食 	前時までの活動を生かし、決められた時間内でお菓子づくりの計画を立てることができるようにする。  保護者や地域の方々への協力をお願いし、伝統的なお菓子づくりに取り組めるように手配する。

ま と め る ・ い か す	(5) <b>作ったお菓子をプレゼントしよう</b>	<p>これまでの学習を振り返ってお世話になった方々へのお礼という視点も考えて活動できるようにする。</p> <p>まとめ方については各自が自由にまとめられるよう指導する。成果をみんなが認め合えるような場を設定する。</p> <p>学習の成果を日常生活の中で生かしていくことができるようみんなが認め合えるような場を設定する。</p>
	(6) <b>イモ菓子づくりのまとめをしよう</b>	
	<p>イモ菓子作りでわかったことや頑張ったことをまとめる。</p> <p>イモ菓子作りで勉強したことをまとめる。</p> <p>発表会</p> <p>活動を通して、さらに取り組んでみたいことなどについて話し合う。</p>	

## 5 訪問・見学の際のルールとマナーの指導

校外に出て学習する活動を実施するためには、社会の一員として当然守るべきルールや身に付けておくべきマナーを児童に指導する必要があります。訪問・見学等の校外学習を実りあるものにするために、次のことを必ず守って参加できるよう事前指導を行います。

### (1) 必ず守らせること

交通規則など社会のルールを遵守させる。  
 金銭に関する取扱いは、活動計画にあるものに限る。  
 公共物の利用は定められた範囲内とする。



### (2) 施設を利用する際のマナー

自分たちだけではなく、一般の方も気持ちよく使えるよう、周囲の状況を考えながら一社会人として良識のある態度で行動させる。  
 様々な施設において、経営している人や管理している人に対して不愉快な気持ちを与えないよう、言動には十分注意をさせる。

### (3) 取材する際のマナー

あらかじめ質問内容を吟味させ、その場になって慌てることのないよう、事前の準備をしっかりさせる。  
 訪問先には事前に必ずアポイントメントをとり、自分の所属小学校・氏名・取材目的等を告げ、相手の都合を確認させる。質問内容を明確にして質問させる。  
 取材が終了したら、感謝の気持ちが伝わるよう丁寧に敬礼をお礼を述べさせる。

### (4) 緊急事態(事故等)が発生した場合の対処法

万一、事故等が発生した場合、児童が担当の教師等に速やかに連絡ができるよう、連絡先や連絡の方法、手順や報告すべき内容等、十分な事前指導を行い、適切な対処ができるようにする。

